

小学校 第1学年
A表現（2）ア、イ B鑑賞（1）ア

題材名

やぶいたかたちから
うまれたよ



実践校
養老町立日吉小学校
授業者 雪竹 千恵子
実践時期 2学期
全4時間

つながりを生かす

- 「もの」とのつながりでは、身近な材料である紙をいろいろな方法で破く時の感触を味わったり、破いてできた紙の形から何に見えるかを想像したりすることを大切に、「もの」と積極的に関わるようにした。
- 「ひと」とのつながりでは、破いた形を友達と見せ合ったり、話し合ったりすることで、「どんな形ができたか」という形の面白さを味わうことや、偶然できた形が「どんなものに見えるか」を伝え合うことで、仲間や自分のものの見方や感じ方のよさに気付くことを大切にしました。
- 「ちから」とのつながりについては、後段階である「いろいろなかたちのかみから」では、紙の特徴を基に表したいことを見つけ、思いのままに絵に表すことができることをねらいとしている。その前段階として、本題材では、紙の形や色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見つけ、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら表し方を工夫して表すことを大切にしました。

題材の流れ

第1時 材料との出会い・試す

紙をいろいろな方法で試しながら破き、破く感触や破いてできるいろいろな形に気付く。

紙の目に沿って破ると、長い形ができたよ。へびみたいだな。もっといろいろな破り方を試してみよう。

第2・3時 絵に表す

破いた形や色、置き方などから表したいことを思い付き、工夫して絵に表す。

手のひら全体で新聞紙をつかんで、勢いよく破ってみたあと、途中から指先を細かく動かして破いてみたら、おもしろい形がうまれたよ。

ポイント1

紙を破く方向を変えたり、紙の握り方や力加減や手の動かし方を工夫したりして試すことができるように、できた形を紹介した。

第4時 仲間の作品を鑑賞する

友達の作品を見て、楽しい発想や工夫を見つける。
・破いた紙を指さしながら、自分の見立てたものをどのように工夫して表したかを交流する。

紙の置き方や並べ方を工夫してみたら、泳いでいる感じになりそうだな。楽しそうに泳いでいるように、パスでいろいろ描き足していこう。

ポイント2

導入では、主体的な学びにつながるように、「どうして置いたの？（理由）」「どんな感じになった？（感想）」「どっちがよさそう？（比較）」等の声かけを行った。「かきたす」という言葉の意味が分かるように、児童の反応を見ながら、手順を視覚化し、全体の場で話し合った。

作品例



破いた形が新幹線に見えました。かっこよくなるように色づかいやタッチを工夫しました。

恐竜の足の形に見えました。怖くて不思議な感じに描き足してみました。



授業を終えて

紙を破く経験を通し、紙の特性に気付くことができた。また造形経験の少ない1年生の児童にとって、破いた紙の形を生かしながら、思いつくままに部分的に描き足すことができ、抵抗感が少なくただの紙がいろいろな形に見えてくる面白さを感じながら発想を広げ、絵に表す楽しさを味わうことができた。